

風土記の丘の花だより²⁰⁷

今、そしてこれから見られる植物(2023年10月14日)

キンモクセイの甘い香りが漂ってきました。やっと秋になった感じがします。風土記の丘ではいろいろな秋の花が見られるようになりました。



一つ目は清楚なキクを紹介します。シラヤマギクです。よく知られた野の花にヨメナ(嫁菜)がありますが、それに対してこれを婿菜と呼ぶことがあります。写真は万葉植物園の中ほどの階段(少し左斜めの階段です)の右側で撮りました。下から少し見上げないと見えませんが、1株だけなので目立っています。ご承知のように、キク科の花には、花びらのある舌状花と、ない筒状花があります。このキクの舌状花は5、6個程度です。散歩道の脇にも咲いているかも知れませんね。



これまでいくつかのハギを紹介してきましたが、今回はニシキハギです。園内で一番よく見られるハギではないでしょうか。葉の両面に細かい毛が多くはえているので、なんとなく白っぽいというか、粉っぽいというか、そんな感じに見えます。触ってみてもなんとなくスベスベした感じがします。園芸用に改良された品種で、本来野生では見ることはありません。園路の登り口の芝生に大きな株が植えられています。花数も多く、見応えのあるハギですね。



こんな下手くそな写真では何を撮ったのか、何が何だかよく分かりませんね。ササなどの間から細く伸びる草の先にか細い穂が出ています。写真で、白っぽく写っているのがお分かりでしょうか。それがノガリヤスの穂です。カリヤス(刈安)は染色に使ったイネ科の植物で、その仲間、野外に普通に見られるので「野」を付けて「野刈安」という名前が付けられています。きっとどなたもこんな草の存在を気に留めていないと思います。でも季節を感じて、きれいな穂を出して秋の訪れを教えてください。



この黄色を見ると、喉や鼻がムズムズしてくる方がおられるのではないのでしょうか。みなさんよくご存じのセイタカアワダチソウです。あたかもたくさんの花粉を飛ばして花粉症の原因・・・のように見えます。でもこの花は虫媒花です。それが証拠にたくさんのチョウやハチ、アブなどが集まってきます。ですから、花粉をモウモウと風に飛ばすことはありません。

松下